

議会市民懇談会報告書

平成29年12月19日

山陽小野田市議会議長 小野 泰 様

民生福祉常任委員長 吉永 美子

平成29年12月6日開催の議会市民懇談会の実施状況について下記のとおり報告いたします。

記

1 開催日時

平成29年12月6日（水） 14:00 ~ 15:30

2 開催場所

山陽小野田市役所 第2委員会室

3 申請団体等名称

山陽小野田市 民間園長会

4 参加人数（市民）

10 人

5 テーマ

山陽小野田市保育所運営上の諸問題について

6 担当議員名

（ 吉永美子 ）（ 山田伸幸 ）（ 大井淳一郎 ）（ 杉本保喜 ）
（ 恒松恵子 ）（ 松尾数則 ）（ 矢田松夫 ）

7 懇談会次第

- (1) 開会挨拶
- (2) 出席者紹介
- (3) テーマの趣旨説明
- (4) テーマの報告
- (5) 意見交換
- (6) 閉会挨拶

8 意見交換の主な内容

①新年度当初の保育所入所希望施設の決定方法について

(市民) 保育所の決定方法は、市が基準に沿って点数化をし、保育が必要かどうかを決定して市と保護者が契約する。保育園は保護者から保育料を徴収するが、保育の決定に関わるできない仕組み。

点数化は市町村によって違っており、各自治体によって考え方が点数に反映するようになっている。例えば、保護者がフルタイムで働いている場合、本市は4点だが、山口市だと50点となっている。この点数を再検討してほしい。

保育園は保護者のニーズを重視し、園ごとにカラーが違っており、園によっては地域の子の受け入れを重視しているところもある。

点数には保護者の意向が反映されない仕組みで、そのために兄弟で別々の園に通うということもあり、保護者に大きな負担をかけている。

点数の不合理性がこのような事例を生んでいる。

(市民) 年度初めに定員いっぱいの希望があっても、入所時期にずれがある場合があり、その際には園が定員を空けておかざるを得ない。

保育園単位で入所判定ができるようにならなければ、不具合が生じる。

(議員) 兄弟で別々の入所となった場合、どのような問題が出てくるか。

(市民) 兄弟を別々に送迎しなければならないし、お下がりの利用ができない。

(議員) 保育士の確保が難しいと聞いているが、実情はどうか。

(市民) 特に新卒の保育士が就職したがる例が多い。

宇部市の大学の保育科に入学が少ない。保育士の待遇などに様々な問題があり就職が少ない。

(市民) 保育の時間が様々あり、保育士の希望とずれがあり受け入れたくとも受け入れ

られない場合がある。

(市民) 柔軟に対応したいが、監査で問題事項として指摘されることがある。

(市民) 保育士の子の受け入れについても特別な配点が必要である。

(市民) ぜひ、市に柔軟な対応ができるように申し出ていただきたい。

②公立保育所の統廃合及び新設の問題点

(市民) 市は以前の説明で厚狭駅南地区に県営住宅が建設されるので、その中に保育園を建設すると言っていた。民間保育園として「やむを得ない」と了承したのだが、県営住宅の予定がなくなり保育所だけを作る必要はない。

(議員) 公立保育園の新設は、民間保育園を圧迫するようなことがあってはならない。

(市民) 新設園ができると1km以内に民間保育園があり民業の圧迫になる。市は「状況が変わった」で済みますのか。

小野田駅の北側にも公立保育園を作る計画だが、民間保育園に影響が出る。

(市民) 小野田駅北側への公立保育園新設は民間保育園にとって死活問題。

有帆にも無認可保育園が認可されると聞いており、挟み撃ちになる。

(市民) 小野田駅北側の新設園ができると保育士の確保にも影響が出てくる。

③待機児童の定義について

(市民) 待機児童が計算と合わないことがあり、待機児童の定義が変わると数値が変わってくる。新設園の定員は170人としているが定員を増やさなくてもいいように思う。

(市民) 厚生労働省が待機児童のカウントを都合のいいように変えており、定義を変えることはよくない。

(議員) 定義については確認する。